

あすれないで平和の大事さ

読谷小学校 六年二組 上地 ひなの

「人間が人間じゃなくなる」

その言葉が私の心に「くさ」
とささった。

この言葉で「これだけ、戦争の悲惨さがわか

るのたろうか。私は、平和は、命と同じくら

い大事だと思ふ。あなたは、「生きる」

あたりまえだと思ふのたろうか。

七十五年前、戦争が始まった。もちろん、

各地に被害があった。沖縄県中部にあつた、

かマヤ壕はおよそ十三壕あった。この数を聞

いて、どう思ふたのか。私は、少なく感じた。

たつて、空から「ドカーン」
と爆

弾が落ちて、でも隠れる所は、十三壕、

十三壕あつた中でも集団死したのは読谷村の

千比千リがマだけだった。

名護市の与那城さんは、家族や、親族、計

八人を亡くした。与那城さんの家族は、壕で、

手投げ弾を爆発させ、じけつした。与那城さ

んは、怖くて、と「さ」に横になり、母と助?

た。私は、この話を見て、やはり、塚で、自分
分で、七くなる方は、少なくなかった。たんだ
と思つた。

「六月二十三日待たず月桃の花散りました。
このメロディは、沖縄県民たれもが知つてい
るでしょう。そんな、月桃に込められた

歌詞をあなたは知つているのだろうか。作
曲をした海勢頭豊さんはこういつた。

「月桃の花が咲くころに、悲惨な戦争があつ
た事実を伝えたい。」

そんな思いを持つた、豊さんは、一九八二年、

「月桃」を發表した。映画の主題歌として、
全国に知られるようになった。「月桃」とい

うテーマにしたのは、戦争で散つても、再び芽を出し、花を咲か

せる月桃の生命力に感動しました。と話して
いたそうた。私は、このような、豊

さんの思いを知り、なにげなく、歌つている
曲でも、一つ一つの歌詞に思いが込められて

いると聞いて、これから、歌う時、このこと

を思い出して歌いたいなと思いましたが。

このようなことを調べ、聞き、平和が

あたりまえじゃない。生きてることかあ

たりまえじゃない。と強く思った。戦争は、

人間じゃなくなる。と

という吉川さんの一言が私は、心に残った。

戦争という大きな事だけど、小さな事が

戦争になるかもしれない。悲惨な戦争があ

たという事実を受けつかなければいけない。

だから、平和が一番大事なことをわすれない

で。